

# 日根野中だより

令和5年4月28日発行 日根野中学校 校長 武田 博之  
さあ、ゴールデンウイークが始まります…

## 体調維持に努めて、有意義な連休にしましょう！

明日からいよいよゴールデンウイーク…。この3年間は制約ばかりで、本当に楽しむことが出来ませんでした。楽しむこと！…そんなことすら言えない状況が続いてきました。

ただ今年からは、まだ感染状況は心配ですが、新生活様式を守った上で、感染防止対策はとりながらも、従来通りのゴールデンウイークが過ごせそうです。ただ何もかも自由になったわけではなく、約束事をしっかりと守り、良い時間を過ごしてほしいと思います。有意義な時間を過ごしてください。

特に1年生は、やっと中学校生活のリズムにも慣れ、心身ともに中学生に変化しようとしている今だからこそ、大事な時間を過ごすことが大切です。この期間をだらだら過ごせば、せつかく身につけてきた中学生としての良い習慣が簡単に消えてしまうとも考えられます。規則正しい生活を心がけ、休み明けにはリフレッシュした…心身ともに健康な状態で登校してください。お願いします。

## 少し気になること… 学校給食について…考える！

学校給食は栄養を補給するだけでなく、「食」を通じて多様な学びができるように工夫されています。成長期に欠かせない必要な栄養素や食品、地産地消、伝統食、郷土食、食事のマナー、役割分担について、感謝の気持ち…など。「人」を「良」くすると書いて「食」…。その「食」を給う…しかも学校で…これが「学校給食」…。いろんな経緯、過去があって今の日本がありますが、その中で「学校給食」が果たしてきた役割はとても大きなものがありました。そんな歴史的な経緯を知ったうえで学校給食をいただくかどうかで、全く意味深さも変わってきます。もちろん個人差があり、みんな一律に同じものを、同じ分量で…と、一昔のような強制はできません。でも、給食を減らす場合でも、どれくらいが今の自分にとって適量なのかを考える習慣を身に付けてほしいと思います。周囲の目を気にして…友

達に合わせて…など、浅い考えで給食を減らすなんてもっての外…。いろんな思いがあり、いろんな経緯があつての学校給食だという認識を持ってほしいと思っています。

世界には、現代の豊かな日本では考えられないくらいの生活を強いられている多くの方がいます…その現実から目を背けず、今の自分は何ができるのかを真剣に考える…そんな声かけをしていきます。「学校給食」の有り難さを心から理解できれば、心の…身体の…人としてのエネルギーに必ず変わっていくはずです。

これからも楽しく、おいしくいただく「学校給食」となるように声かけしていきたいと考えています。ご家庭でもいろんな角度からお話しいただき、子どもたちが健康に生活していくための基本となる「食育」について、考える時間をとっていただければ幸いです。

## 4月26日…令和5年度 前期生徒会役員選挙が行われました…

4月26日に令和5年度前期生徒会役員選挙が行われました。この4月には全国的に2回の選挙が行われ、子どもたちも意識していた中での今回の生徒会役員選挙…。また選挙権が18歳にまで引き下げられ、中学3年生のみなさんにとっては間近に迫った身近なものに感じている人も多かったのではないのでしょうか？今回代表として生徒会役員になった仲間も、自分の果たすべき役割を十分に自覚し、生徒会全体の活性化につながる、日ごろの取り組みを重視した活動をお願いします。

## こんなことも大事です…よりよく生きる…心をつくる…

この三年間…誰もが苦しい生活を強いられてきた中、その苦しみや悲しみをどのように捉えることが出来たのかによって、人生は大きく変わってしまいます…。プラスに捉える力があれば、何でも成長の糧にできますが、マイナスにしか捉える力がなければ人生は苦しくなるばかり…。自分たちが直面する出来事には、どのようなことにも必ず意味があると、まず考えること。そこで行われる、前向きな「心の作業」こそ、「よりよく生きる」上で、最も大切な「心の持ち方」だと思うのです…。

人生は平凡に感じる日々の積み重ねですが、その中に思ってもみない発見をすることがあります。目の前に現れる苦しみも悲しみも視点を変え、すべて肯定的に受け止めることができれば、今まで何気なく思い、見過ごしてきた物事の中にもきらりと輝く「宝物」を発見することができるかもしれません…。すべて自分自身の考え方、捉え方、解釈の仕方次第…。そんな「心づくり」が人生を豊かにしてくれます…。「よりよく生きるヒント」こそが、そこにあると思います…。

はるか遠いところに  
幸せを探し求めるのではなく  
自分の身のまわりや  
足元を見ろ直すこと…  
• 本当の幸せは  
必ず近くに 있습니다…